

オーディオ実験室収載

リベラメンテケーブルを聴く（2）

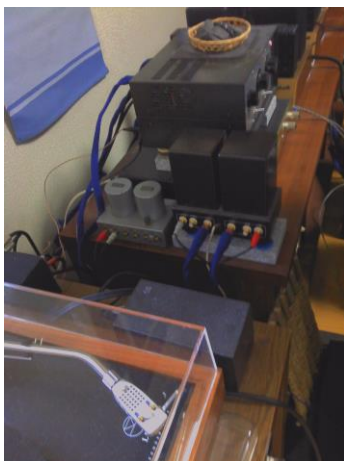
—どこに繋ぐか（その2）—

3. LBA-1.3XLR バランスアナログケーブルの評価（プリ／パワー間接続）

プリアンプとパワーアンプの間に P&G のフェーダーをかませています。プリアンプとフェーダーの間のバランスケーブルはいくつか試したものの気に入ったものが見つからず、V 社の線材で特注したものです。ここをリベラメンテのバランスアナログケーブルと置き換えてみました。なお、プリアンプへのデジタル入力系はリベラメンテのままとしており、信号ラインに 2 本のリベラメンテが置き換わったこととなります。その結果、デジタル入力系での V 社品とリベラメンテの関係が同様の方向に平行移動した感じで、リベラメンテの追加で間接音がより豊かになり、音と音との響き具合と分離のバランスが非常に良くなりました。

4. LBA-1.3RCA RCA アナログケーブルの評価（アナログ入力系）

デジタル再生系の入力に使用した場合の評価は以上に述べたとおりですが、アナログ再生ではどうなるかということで、ステップアップトランスからプリアンプのフォノ入力に使用した場合について現行の L 社品および上記 M 社品と比較してみました。



リベラメンテをフォノ入力に繋ぐ

L 社のケーブルは、LP-12 導入時に購入したもので極めて優等生的なまとまった音がします。

M 社のケーブルは一転、切れ込みが良くアナログらしからぬ解像度の良い音を聴かせてくれます。

リベラメンテは、デジタル入力系やプリ／パワー間接続に使用した場合と同様、音と音との響き具合と分離のバランスが非常に良くなり、これぞアナログを聴いているという喜びを感じさせてくれました。

このようなことから、微弱信号のアナログ入力系の方が、デジタル入力系よりリベラメンテの力をより効果を発揮していると言えるかもしれません。

以上